

選挙戦通じ情報開示せよ
政治は権謀術数が渦巻く権
力抗争であるが故に、しばし
は問題がこがらる。

一九七〇年代後半から八〇
年代にかけて、中欧や北欧諸
国に「シングル・イシュー・
ポリシー」(単一課題政
治)を掲げた小政党が出現
した。環境保護団体などを背
景とした緑の党、環境党など
いわゆる「アドホック」集団
である。彼らは環境政策など
をおろそかにした大政党の票
を食い、さらに連立政権を組
んだ時期もあった。シングル
・イシュー政党は小集団の特
徴であった。

小泉首相の郵政民営化への
執着は、単一課題選挙の形を
とり、総選挙を「国民投票」
と位置付けた。なぜ総合政党
なのに争点を「単純化」した
のか。国会議員の身分に無関
係な国民投票は総選挙とは基
本的に違うのである。

もし郵政民営化実現一本の
選挙ならば、思い切った踏み
込んだ情報公開をすべきであ
ろう。オウム返しに「民でで
きるものは民で」とか「小

な政府」の繰り返しでは、有
権者の納得は得られない。

私が当初からこの問題に深
い関心を持って観察してきた
のは、「小泉・竹中」ライン
の説明の中心であった。

問題の本質に触れる説明を受
けているか疑問である。

重要である。国会の審議も、
世論の批判にさらされてこそ
討論の価値は高まる。徹底し
た情報公開と十分な討論を基
礎にした審議過程の構築があ
つてこそ、政治への信頼感も
生まれるのである。

授権法」を有無を言わずで
つち上げ、議会審議をせずに
立法過程を恐ろしいほど単純
化して、立法を強行した政治
の悲劇であるとした。

独裁政治は、単純な宣伝文
句を巧妙に繰り返すことで、
重要である。国会の審議も、
世論の批判にさらされてこそ
討論の価値は高まる。徹底し
た情報公開と十分な討論を基
礎にした審議過程の構築があ
つてこそ、政治への信頼感も
生まれるのである。

問われるべきは単純化政治の是非

正論



明治大学元学長
岡野 加穂留

求めるべきである。

程遠い日本の二大政党制

官僚機構特有の秘密主義と
日本行政機構の「縦割り省益
割拠主義」と自分の任期中に
問題が起きさへしなければい
いという官僚の保身根性が情
報を非公開とし、問題の先送
りをしているのではないか。

果たして首相自身、どこまで
果たして首相自身、どこまで
果たして首相自身、どこまで

一九一九年のドイツ帝国崩
壊後に生まれたワイマル憲
法に基づく連邦制の共和国
が、三三年にナチスの政権掌
握で滅びた理由について、哲
学者マイネッケは『ドイツの
悲劇』(一九四七年)の中で
次のように指摘している。

彼は、ナチスを「恐るべき
単純化をする人々」と呼び、
議会審議を無視して「ナチス
の、拒抗する二大政党時代に

総選挙を国民投票とするなかれ

はまだまだ程遠い現状だ。自
民も民主も地方自治体の末端
組織である基礎自治体(町
村)に足場を持たぬ「根無し
草」政党ゆえの悲劇だ。選挙
で無党派層が決起すれば、逆
ピラミッド型の党本部組織は
崩れ、政界再編成のきっかけ
になるかもしれない。

多元的な価値観の尊重を
日本の将来政治のために、
市場原理一辺倒ではなく、多
元社会の多元的な価値観の尊
重を第一とし、国会審議過程
を慎重に運び、政治自体の
「単純化」には厳しい監視の
目を向けることが必要だ。

二十世紀のユダヤ系オース
トリア人作家S・ツヴァイク
は次のように語っている。
「生命の火と色彩を失った
時には、自分こそは新しい真
実の体系を発見、あるいは編
み出したと厳然とした調子で
宣言しさえすれば、幾千幾万
の人たちは、たちまち自称民
俗救済者または世界救済者を
信用してしまう」と。

首相はこの言葉の深い意味
を肝に銘じるべきであらう。

(おかの かおる)

城田さん⑤とオディ氏

いといけないと思ってい
た」と話したそうです。
(喜多由浩)

ツ・サセ

【東
U-大
O-C